

ピロリ菌の除菌はいつするのか？



総合内科医 川村 誠

ピロリ菌による胃炎に対し平成 25 年 2 月より保険による除菌治療ができるようになりました。

現在ピロリ菌については胃・十二指腸潰瘍の原因であり除菌に成功すれば、再発率がかなり低下することがわかりました。このためあっという間に全世界に広まりました。また日本人に多い胃癌もピロリ菌の除菌により発生率が低下することもわかりました。このため 2009 年日本ヘリコバクター学会でもピロリ菌の除菌が勧められるようになりました。



2005 年にピロリ菌を発見したバリー・マーシャル教授とロビン・ウォレン博士はノーベル生理学賞を受賞しました。それまでは胃の環境は強い酸性状態であり、とても細菌が増殖できるなどという発想は全くなかったという時代でした。1983 年の Lancet の報告を読んでも半信半疑であったことを思い出します。その後の経過はまさにパラダイムシフトが起こった状態でした。その後胃癌の発生にもある程度ピロリ菌が関与していると分かり、消化器科界では百家争鳴状態となり現在に至っています。

まず除菌治療を行うには

「内視鏡検査(胃カメラ)で胃炎の確定診断がなされた場合」です。

日本人では胃癌の罹患率が高いということで、現時点では内視鏡検査が必要です。実際の治療はプロトンポンプ阻害薬、クラリスロマイシン(場合によってはメトロニタゾール)、アモキシシリンの 3 種類の薬を 7 日間服用します。これらの治療により 70-80%程度除菌できることがわかっています。注意してほしいのは除菌により胃癌発生率はゼロになるのではないという事実です。特に「胃前庭部の萎縮、体部の上皮化生が強い」などと言われた場合は引き続き胃カメラによる経過観察が必要です。抗生物質を使用しますのでアレルギーなどの問題もあり、しっかりと先生の言うことを聞いてください。おそらく治療方法も今後変わっていくと思われるので、できればメモなどをすれば安心です。

また基本的に塩分のとりすぎ、野菜、果物不足、喫煙などの生活習慣の是正も必要なのは言うまでもありません(聞き飽きたと思われるが)。